

十月六日

昨日は名古屋でシンポジウム。できるだけ講演会その他は断るようになっているが、川島康治さんからの話しだったので出掛けた。「まちなみ・まちづくりシンポジウム」という事で今の私の関心から外れているテーマだったが、「まちづくりは、今」ということで話せということだった。昔の遺産で何とかしのいだ。しかし、会場に幻庵の榎本基純さんが来て下さっていたので、話しができて良かった。だいぶん昔に妹尾河童さんが講演会のあとはずぐ帰るもんだ、残るとボロが出るかと教えてくれたのだが、そうはうまくいかない。会食の場が用意されていて、結局名古屋泊り。野辺公一が別の会に来ていて彼も誘って食事となった。しかし榎木館、豊田佐吉邸、伝武田五一設計一九二四年春田鉄次郎邸を見学できたのは良かった。食事の後、野辺と軽く飲む。「群居」廃刊後の彼の身の振り方はチョツと気にしていたのだが、なんとかやっていけるようだ良かった。大野勝彦、布野修司とは結局縁がなかったなあ。

今朝は名古屋駅のツインタワーのホテル、マリオットを朝ゆつくり出て、のぞみで東京に戻る。動くことに全く感動が無くなつてしまった、汽車では眠るだけ。だんだんこうやってミイラみたいになるんだな。世田谷村でいくつ打合わせ。

十月七日 日曜日

休息。何でもこう休むのが下手なんだろうとタメ息ついでしまう。朝七時半に起きて、古い家具や小箱を3階に上げたり、降ろしたり。誰か友人に電話してみようかと思ったり、でも考えてみたら何の用件もなく、キット嫌がられるだろうと小心になって止めた。カーテンを開けたり、閉じたり。何処かに置き忘れたらしい時計を探したり。全く休んでいない。絵を描くのもあきたし、すでに屋上菜園もあきてしまった。秋マキの種は用意してあるのだが屋上にあがるのがおっくうだ。

これでは来たるべき老人時代をとても乗り切ることができない。予測するに、長生きしてしまつたらとてつもない毛嫌いな老人になるだろう。誰も相手にしてくれそうもない。しかし孤独には弱い。ガキの頃から一人遊びなんてした事がない。いつもガキ大将風に走り廻っていた。大人になつても大将じゃないが、少佐ぐらいの感じでいつも何かやってた。少くともやるうとしていた。退役少佐は何をして休めば良いのか。それがどう考えても、想像しても思い浮かばない。死ぬまで仕事つても野暮だし、きつといづれ建築もあきるだろう。やる事なくてイライラして、家族にも見放され、友人達にも回避される傾向になり、ヤケになつて老人社交ダンス倶楽部などにもぐり込み、助平ジジイとのしられ、古本屋では立読み禁止のピラを貼られ、結果恐らく引込み思案の毛嫌いな老人になるにちがいない。

自分では何もやるうとしないだろうから、何か上品な事やってる友人達をハイエナのように渡り歩き、又来たの、なんて冷い事言われて震えあがり、お前さん冷いじゃないか若い頃はよく一緒に遊んだじゃないか、とのしり返すこともできず、全く途方に暮れ、仕方なく釣りにでも思つても釣糸たれてる自分の姿を想うだに恥かしく、とてもできない。家内は年とつたら一人で旅行

するのだと宣言していて、私など眼中にない。その計画には納得している。老いて共に旅するのに私くらいイヤな相手はいないだろう。朝起きれば昼飯どうすると聞くばかりだし、夕方になれば明日の朝食どうすると聞く。一向に気分は休まらない。

犬、猫を友にするという手が残されているが、これまで犬猫にしてきた数々の悪業を思い起こせば、とても彼等は私を許さないだろう。小学生のころカメを飼って、それには唯一悪さをしなかったし、キョーリなど小カメにあげていた記憶があるから、カメ族は私にはうらみは無い筈である。で、結局、毛嫌い老人は何処かでこっそりカメなんか買ってきて、密かに屋上のカメに入れて飼うことになる。話しかける相手もいなくなっているから、カメをのぞき込んでカメにグチをこぼし続けて、カメまで首をこつらから出さなくなる。こらこらカメよカメさんよ、首ぐらい出してくれないじゃないのと、カメに顔を突込んでいるうちに、首が抜けなくなり、悲惨かつ滑稽な最期を迎えてしまう。新聞のあり得ぬ出来事なんて欄の困み記事に出てしまい。某老人カメに首を突込みカメにカマれて悶絶。などと本来悲しい筈の最期までお笑いにされてしまう。そんな毛嫌い老人に私はなってしまうだろう。辛い。こんな事書き続けている自分がみじめだ。

今日、一日何をやるのか考えなくてはならない。書かなくてはならぬ原稿は多過ぎるから、来週にまわそう。もうチョツと面白くないのかね、まったく。

十月八日

椅子のデザイン続行。現在6ヶ月。この精度で建築が設計できたら革命がおきるだろうが、何故できないのかな。身体との即応が建築にはまだ要求されていないのと、実際の作り方への設計家

の対応する能力が低いのと、その双方からきている。

午後、フィンランド大使館へ。二〇〇三年に予定されている展覧会の打ち合わせ。フィンランドからレヴァント、ヴィヘルヘイモ両氏が来日していて、原則論的打ち合わせに終始した。総勢十三名のミーティングだったが、本当に必要な会合だったのかわからぬところもある。二〇〇二年二月にラップランドでシンポジウムを開催することになっているが日本側のパネリストを来週の月曜日までに決めなくてはならない。「静けさ」をテーマにフィンランド側は若手のデザイナー達を選ぶそうだから、日本も二〇〇五年にはそうすべきなのだろうが、三〇代に人材が出現してくれば良いのだが、今の状況ではとても無理だろうな。日本の建築を静けさというキーワードで状況を横断しながら語れる人物は一人しかいない。明日相談してみよう。

夕方六時半会議終了。広尾のレストランで大使館スタッフも交えてディナー。

十時半帰宅。